

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 発生作物 トマト、ミニトマト、ナス、キュウリ、アスパラガス、パプリカ、ブーバルディア
- 2 病害虫名 タバココナジラミ バイオタイプQ
(*Bemisia tabaci* Q-biotype)
- 3 発生確認地域 表1のとおり
- 4 特殊報の内容
 - (1) 発生確認の経緯
平成17年10月～11月に県内各地で採取したタバココナジラミを、福岡県農業総合試験場病害虫部においてPCR法により検定を行った結果、タバココナジラミ バイオタイプQであることが確認された。
なお、検定に用いたPCR法は九州沖縄農業研究センター上田氏の方法に準じた。
 - (2) 被害の特徴
 - ア 成幼虫の吸汁による生育阻害
 - イ 成幼虫の分泌物に発生するすす病による葉、果実の汚れ、光合成阻害
 - ウ TYLCVの媒介(トマト、ミニトマト等)
 - (3) 形態・生態
 - ア シルバーリーフコナジラミとの形態上の差異は成虫、幼虫とも確認されておらず、肉眼での形態によるシルバーリーフコナジラミとの区別は困難である。
 - イ スペイン、イタリア、中国などで発生しているが、詳細な生態は不明である。
 - ウ 宮崎県病害虫防除所・肥料検査センターの試験では、シルバーリーフコナジラミとの交雑は認められなかった。また、カボチャ葉の白化症状を発現させる能力は低かった(未発表)。

(参考)

タバココナジラミは、世界中に分布し、トマト、ナス等の野菜のほか、花き類、雑草等の多くの植物に寄生する害虫である。

タバココナジラミは、遺伝子が異なる41の系統(バイオタイプ)が確認されており、このうち24の系統については特定のバイオタイプ名が付けられている。シルバーリーフコナジラミ(タバココナジラミ バイオタイプB)も系統の1つである。

5 他県での発生確認状況

宮崎県では、ピーマン、シシトウ、トマト、ミニトマト、ナス、キュウリ、メロン、大葉、サツマイモ、熊本県ではトマト、ミニトマト、メロンで発生が確認されている。

6 防除対策

- (1) シルバーリーフコナジラミと比較すると、ピリプロキシフェン薬剤及び一部のネオニコチノイド系薬剤に対する感受性の低下がみられ有効な薬剤は少ない。このため、施設栽培では防虫ネット(通気性のよい0.4mm目合い等)を設置するとともに、光反射マルチ、黄色粘着板等の物理的防除を行う。
- (2) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避するため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に心がける。
- (3) ほ場内、周辺の雑草は発生源になるので除草を徹底する。
- (4) 施設栽培終了時には蒸し込み等を行い、完全に死滅させ外部への飛散を防ぐ。

表1 県内で採集したタバココナジラミのバイオタイプ検定結果

採取作物	採取場所	検定個体数	バイオタイプ ¹
アスパラガス	八女郡広川町	2	Q、Q
	前原市	2	Q、B
キュウリ	久留米市	2	Q、Q
トマト	うきは市吉井町	2	Q、B
ミニトマト	田川郡糸田町	1	Q
	糟屋郡新宮町	2	Q、Q
	山門郡瀬高町	2	Q、Q
ナス	山門郡瀬高町	2	Q、Q
	朝倉郡筑前町	2	Q、Q
	甘木市	2	Q、Q
	田川市	1	Q
パプリカ	前原市	2	Q、Q
	糸島郡志摩町	1	Q
ブーバルディア	糸島郡志摩町	1	Q

¹ Q : タバココナジラミ バイオタイプQ
B : タバココナジラミ バイオタイプB (シルバーリーフコナジラミ)